



大田区立小池小学校 学校だより

明るくあいさつ
心をこめて

<https://www.ota-school.ed.jp/koike-es/>

「自己肯定感・自己有用感の醸成」

副校長 神戸 大石

「自己肯定感」と「自己有用感」を高めることは、学習に対する意欲の向上や良好な友達関係の構築にとって大切です。これらが高めることは、子どもたちが自らの未来を自らの手で切り拓くことにもつながっていきます。

学校生活では、授業やたてわり班活動、運動会・学習発表会の行事等の友達との関わりの中で、自分に自信をもち、人のために役に立とうとする姿が多くあります。

それらの中でも特に成長が見られたのは、「小池なかよしタイム」と「おおたの未来づくり」です。

小池なかよしタイム

上学年が下学年に丁寧に算数の計算の仕方を教えている姿を目にしました。「分かった、できた」と喜びの表情が表れ、「自分はできる」と実感した下学年や丁寧に教えて「役に立って嬉しい」という上学年の様子が見られて微笑ましかったです。

おおたの未来づくり

5年生では、商店街の活性化のために「ポスターづくり」や「なぞときラリー」を自ら考え、魅力を伝えようと努めました。

6年生の「租税教室」では、雪谷法人会の方から税について学んだ後、「大田区の魅力を活用し、ふるさと納税の返礼品」を考案する等、「社会のために自分たちでできること」を実践しました。

お店の人や税務署の方から励ましや称賛を受けて、「自分は～ことができる」という自己肯定感を高め、「自分たちは社会のために役に立つことができた」と自己有用感の醸成につながったことと考えます。

2月14日の道徳授業地区公開講座では、講師を招き、「こどもの自己肯定感・自己有用感を高める声掛けや関わり方について」の講演会を行います。保護者の方の関わり方によって、こどもは「自分は大切にされている」と感じ、「他の人のために頑張りたい」と気持ちを高めていきます。ぜひ、講演会にご参加いただき、「自己肯定感や自己有用感」を高めるきっかけを考えていただけたら幸いです。

二月の行事予定

日	曜	行事予定
1	日	
2	月	昼休みなし 放送朝会 委員会活動
3	火	
4	水	特別時程午前授業(校外研究会のため) 児童集会
5	木	代表委員会
6	金	スピーチ大会(4年)
7	土	
8	日	
9	月	昼休みなし 放送朝会 クラブ活動
10	火	大田区漢字検定
11	水	建国記念の日
12	木	全学年5時間授業 大田区教育委員会学校訪問
13	金	安全指導
14	土	学校公開(道徳授業地区公開講座)
15	日	
16	月	1・2年生午前授業 放送朝会 新一年生保護会
17	火	特別時程午前授業(校外研究会のため)
18	水	運動朝会 クラブ活動
19	木	クラブ発表
20	金	記名タイム 小池まつり(2~4時間目)
21	土	
22	日	
23	月	天皇誕生日
24	火	保護者会(1, 2, 3年) 3年生5時間授業 昼のなかよしタイム
25	水	朝のなかよしタイム
26	木	全学年5時間授業 保護者会(4, 5, 6年) クラブ発表
27	金	委員会発表集会(エコスクール)
28	土	

※2月の避難訓練は、予告なしで行います。

※スクールカウンセラー相談日

隠村 美子 10日(火) 17日(火) 24日(火)
山本 有見子 5日(木) 12日(木) 19日(木)

一年生の様子

担当 錦織 雅志

1年生は、「挨拶」を大切にして学校生活を送っています。

入学当初は、初めての環境で緊張して声が小さかったり、いろいろな人に挨拶をすることに戸惑ったりする様子も見られました。それでも、毎日の積み重ねの中で少しずつ自信をつけ、3学期の始めには、「挨拶を自分からする」という目標を立て、意識して自分から挨拶をしている児童が見られました。朝の登校時には、門で挨拶当番の上級生や先生に、教室で友達に、自分から挨拶する姿や笑顔で挨拶をする姿が増えてきました。

また、給食の時には「いただきます」や「ごちそうさまでした」の挨拶だけでなく、給食を作ってくれる方に「いつもおいしい給食をありがとうございます。」「ごちそうさまでした。おいしかったです。」と伝える姿が見られます。様々な場面で挨拶することで、自然に人との関わりを広げています。挨拶は、相手の存在を認め、思いやりの気持ちを伝える大切な行為であり、こどもたちは日々の生活の中でその意味を少しずつ学んでいます。

2月は、登校時に校門で、これまで上級生がしてくれた挨拶当番を1年生がします。今からとても楽しみにしている姿が見られ、挨拶の大切さをより感じたり、自信をもったりするよい機会になると思います。

今後も、相手の目を見て心を込めて挨拶ができるよう、声掛けや見守り続けながら、基本的な生活習慣とともに、人と関わる力や社会性を育てていきます。

道徳授業

担当 棧敷 真惟

道徳性は、こどもたちが日々の学校生活やさまざまな活動の中で、経験を通して感じたり考えたりしたことを基に育まれていくものです。そのため、道徳の学習は道徳の時間だけでなく、学校の教育活動全体を通して行われています。また、その育成には、家庭や地域との連携が欠かせません。

本年度も、道徳授業地区公開講座を実施いたします。2月14日（土）には、3時間目に大田区教育委員会統括指導主事の中治謙一先生をお招きし、「こどもの自己肯定感・自己有用感を高める声かけや関わり方について」をテーマとした講演会を予定しています。地域・家庭・学校が一体となり、現代のこどもたちの心の育ちについて共に考える貴重な機会にしたいと考えております。

道徳科の学習は、「答え」を導き出すことを目的とするものではありません。教材との出会いを通して、自分自身との関わりで感じ、考えたことを基に、価値について自分事として捉え、自らの心を見つめる学習です。そのため、全員で一つの正解を求めたり、合意形成によって結論を出したりする学習ではありません。自分自身について考えを深める時間そのものに、大きな意義があると考えています。

なお、道徳科は3学期の通知表において、こどもたちの学習の様子を文章で記述しますが、その捉え方は他教科の評価とは異なります。特別の教科道徳では、学習状況の把握として表記し、こどもも一人一人が自己の生き方について考えを深めていく過程を大切にしています。

今後も、こどもたちの豊かな心の育成に向けて、皆様のご理解とご協力を賜りますよう、よろしく願いいたします。